

入力した値が重複していないかをチェックする

DLookup 関数

指定した条件でテーブルやクエリを検索し、最初に見つかったレコード内のフィールドの値を返す関数です。また、検索した結果、レコードが存在しない場合は Null 値*を返します。

* 「Null 値」と「空文字列 (= 長さ 0 の文字列)」。どちらも見た目はまったく同じ「何もない」データです。しかし同じ「何もない」ものでも、「入力できない」と「実際にデータが無い」のでは意味が異なります。

このような場合に、あえて区別をつけるために「長さ 0 の文字列」、つまり「空文字列の許可」というプロパティが用意されています。

たとえば[携帯電話番号]フィールドのプロパティで「空文字列の許可」を「はい」に設定します。何らかの理由で入力できないのであれば Null、つまりそのままにしておき、携帯電話番号自体が無いのなら長さ 0 の文字列 (“ ”) を入力するようにすれば、両者を区別することができます。

書式：DLookup (フィールド名, テーブル名, 条件式)

DLookup(“取引先コード”, “取引先マスタ”, “取引先コード = ‘ ” & Me!取引先コード & “ “)

値を調べるフィールド名

テーブル名 (またはクエリ名)

検索するときの条件式

補足：DLookup 関数はさまざまな使用が可能です。

取引先コードに重複した値を入力をするとエラーメッセージを返す（表示する）。

取引先マスタ

取引先コード SK001

取引先名

担当者

電話番号

FAX番号

郵便番号

住所

備考

レコード: 3 / 3

取引先コードチェック

SK001 はすでに登録されています。

OK

取引先フォームのデザインビューから[取引先コード]のコントロールを選択する。

取引先: フォーム

取引先コード

取引先名

担当者

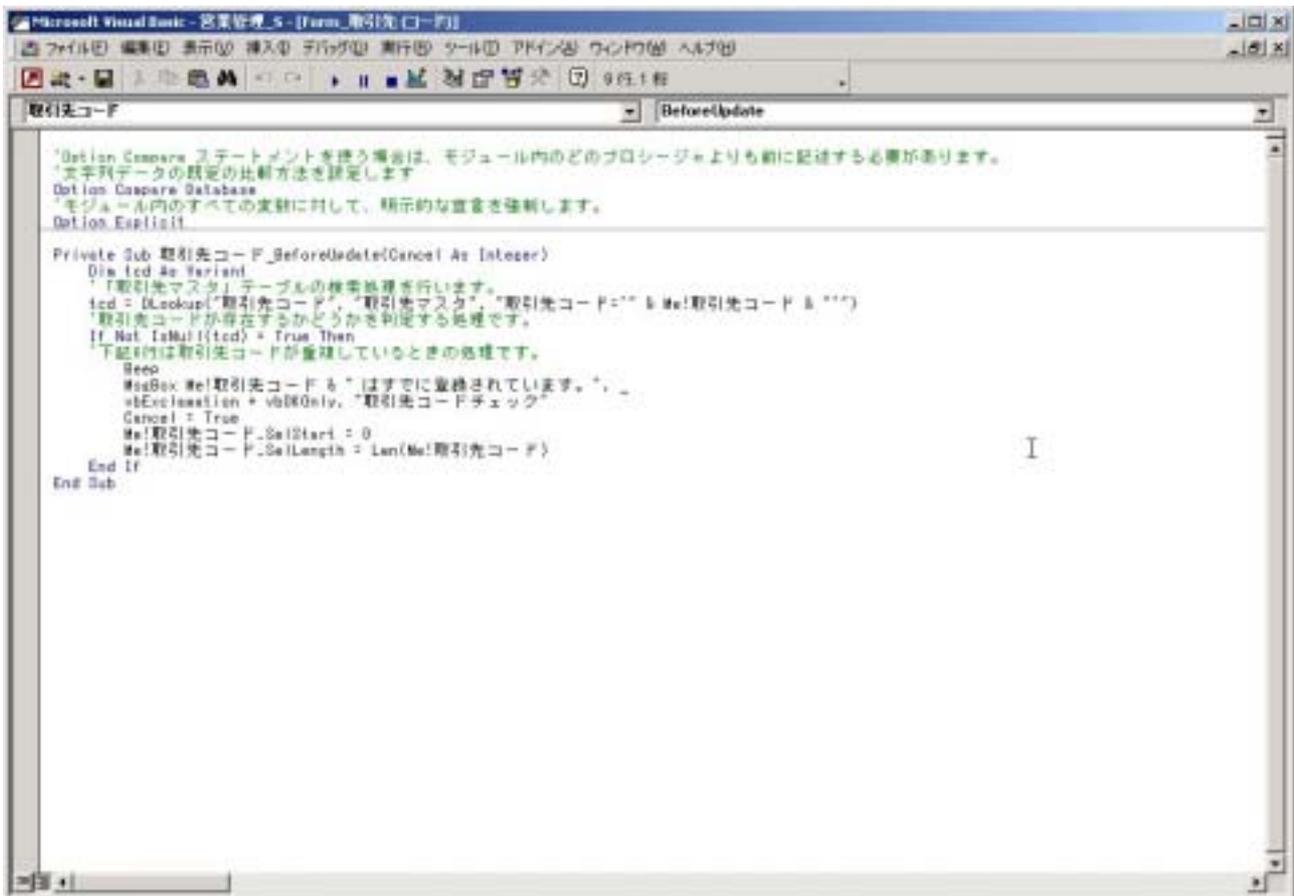
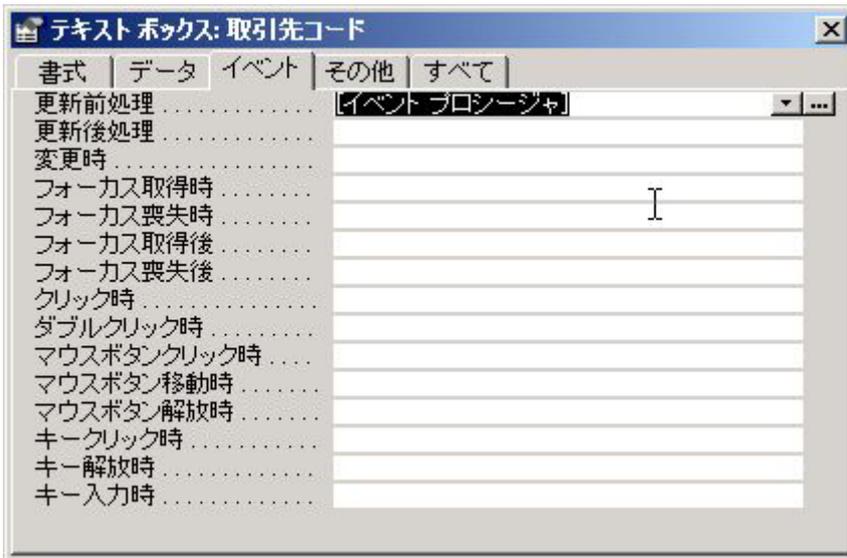
電話番号

FAX番号

郵便番号

住所

[プロパティ]-[イベント]-[更新前処理]に[イベントプロシージャ]を記述する。



Option Compare Database

Option Explicit

Private Sub 取引先コード_BeforeUpdate(Cancel As Integer)

Dim tcd As Variant

'「取引先マスタ」テーブルの検索処理を行います。

tcd = DLookup("取引先コード", "取引先マスタ", "取引先コード=" & Me!取引先コード & "")

'取引先コードが存在するかどうかを判定する処理です。

If Not IsNull(tcd) = True Then

'下記 6 行は取引先コードが重複しているときの処理です。

Beep

MsgBox Me!取引先コード & " はすでに登録されています。", _

vbExclamation + vbOKOnly, "取引先コードチェック"

Cancel = True

Me!取引先コード.SelStart = 0

Me!取引先コード.SelLength = Len(Me!取引先コード)

End If

End Sub